

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

May
ISSUE



May, 2026
Volume 167

新島襄の日記より～Risk-takerのすすめ～

新緑の美しい季節になりました。新学期が始まり、少し緊張した子どもたちの面持ちが、この1か月で笑顔に変わり、校舎内に響く子どもたちの声を嬉しく聞かせていただいている今日この頃です。早いものでもう5月。祝日・休日が続く、緊張が解けるとともに、心身ともに疲れを感じやすい時期、今月は少し元気の出るお話をお届けしたいと存じます。

同志社大学の創設者、新島襄のお話です。彼は日記をつけていたのですが、そこに自分が感じたことや思いを書き綴っていました。これを大学の良心学研究センターが2019年に本にしており、私たちも当時の新島の生活を垣間見ることができます。本のタイトルは「新島襄 365」。この中から幾日か分の日記を皆様にご紹介したいと思います。

まずは1864年4月8日に書かれた日記から。この日彼は函館に滞在していました。その際初めてロシアの病院を訪ねる機会があったそうなのですが、その日のことを彼は次のように書き残しています。「ロシアの病院は、貧富にかかわらずすべての人を見て、病気を治すためにできるだけのことをし、なおかつ無料という事実が驚いた。」彼は自身の見聞から、当時の日本では医者が薬を渡す際に経済状況で差別をしていると感じていたようで、国籍や貧富の差に関係なく病気の人々を助けるロシアの病院の対応に驚いたようでした。

次は4月9日の日記です。「今は襦袢(じゅばん)三枚を洗う。我家にありし時、自衣を洗わず。しかし今は学問のためとは申しながら、自ら辛苦を知るは、これまた学問の一と諦めなり。」私はこの日記を読んで思わず笑ってしまったのですが、これは彼の航海日記「函館から上海、ボストンへ」に書かれたもので、新島にとって洗濯は初めてのことだったよ

うなのです。この時新島は21歳。江戸末期に武士の家に生まれた彼は、身の回りに世話をしてくれる人々がいたので、それまで洗濯をする必要がありませんでした。若者が、初めてする洗濯を「辛苦」とよび、四苦八苦しながら取り組んでいる様子をほほえましく読ませてもらいました。

最後に4月10日の日記です。「セイラー(船乗り)より借りたキリスト教の聖書を少しばかり読んだ。実に、帰郷のうえ、再び父母にあいたる心地で、心の喜びが大きかった。」初めて聖書を読み、ご両親に会った時のような嬉しさと感動を覚えた、と書かれています。

実は今回ご紹介した3日分の日記には共通点があります。それは新島が「初めて」見たり体験したりしたことを書き綴っていることです。

この話を礼拝で子どもたちにもしたのですが、自分にとって初めての経験というものは、チャレンジする前は怖いと感じることがあるかもしれません。しかしRisk-takerとなって実践に移していくことに価値があり、新年度当初というのはまさにそのベストタイミングだと思うのです。特に成長期の子どもたちの挑戦は尊く、是非保護者の皆様には、その過程を評価し、失敗したとしても「そのチャレンジが素晴らしかったよ。」と温かい言葉をかけていただきたいと思います。IBでは、行動にして初めて新しい学習を理解した、身に付けた、と評価します。新しい友達や先生との出会い、初めての経験、新しい学び、「初めて」や「新しい」がいっぱいの春。子どもたちにはRisk-takerとなって自分の世界を広げてほしいと願うとともに心から応援しています。 ロハス 亜紀

〈参考文献〉「新島襄 365」同志社大学両親学研究センター編集 同朋舎





キリスト教教育

5月：尊敬 May: Respect

「誰にも悪をもって悪に報いることなく、すべての人の前で善を行うよう心がけなさい。」

ローマの信徒への手紙 12章 17節 (聖書協会共同訳)

親になったある時期から、メディアを通して世界の紛争のニュースを見るたびに心に感じるがあります。それは、有名な昔話を知らないか、あるいは全く忘れてしまっている大人があまりにも多く、またそのような大人が政治を動かし世界全体を揺るがす大きな決断をしてしまっているのではないかと、ということです。最近のニュースを見ていて特に思い浮かぶ昔話が、イソップ物語の「北風と太陽」です。

北風と太陽が、どっちが力がつよいかと争いました。道のあるいている人間の着物をぬがせたほうが勝ちだということに決めました。北風のほうが先にはじめて、はげしくふきました。すると、人間が着物をおさえたものですから、北風はますますふきつけました。ところが人間は、ますます寒がって、ほかの着物まで着こみましたので、北風はとうとうつかれきって、太陽に、こんどは、きみの番だといいました。太陽は、はじめはじわじわと照らしました。すると、人間が着物をぬいだので、もっと、光をつよくなりました。人間は、しまいとその熱さにがまんできなくなりました。そこで、着物をぬぐと、川の流れにはいって水を浴びました。…

(「イソップのお話」編訳：河野与一；岩波少年文庫 2010 年版より)

話の中の「北風」とそれに対する「人間」の反応は、まるでどこかの国と国の応酬を見ているかのようです。力で脅し、言うことをきかせようとしても、相手は却って警戒心を強めて態度を硬化させていくだけだということが、なぜわからないのでしょうか。

もう一冊、今の時代に思い出したい著書があります。ロバート・フルガム (Robert Fulghum, 1937-) という人が書いた、「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」(初版 1988 年；訳 池 央耿) というエッセイです。

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々をおくればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場にうまっていたのである。わたしはそこで何を学んだらうか。

何でもみんなに分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。使ったものはかならずもとのところに戻すこと。ちらかしたら自分で後片づけをすること。人のものに手を出さないこと。誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。…

著者のエッセイの冒頭部分ですが、我々大人こそが噛みしめるべき教訓ではないでしょうか。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

<お知らせ>

① 2025 年度「おにぎり献金」は、2026 年 3 月末時点で総額 49 万円でした。

寄付先は以下の通りです。

- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「このとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター (石川県能登半島地震支援金口)
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

以上 7 箇所の寄付先へ、各 7 万円ずつ寄付されました。

※「シリア緊急募金」は 2025 年 7 月 31 日をもって終了しました。「皆様からのお力添えにより、これまで約 34 億円のご支援をお預かりし、紛争下で苦しむ子どもたちや最も脆弱な人々に対して、食料や清潔な水などの基本的な生活必需品を中心に多くの支援を提供することができました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。」とのことです (日本ユニセフ協会 HP より一部抜粋)。

一年間の皆様の温かなご理解・ご協力に、心より感謝申し上げます。

② 2026 年度第 1 回目の「おにぎり献金」は、5 月 19 日 (火) を予定しています。

今年度の寄付先は以下の通りです。

- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「このとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター (石川県能登半島地震支援金口)
- ・海外：日本ユニセフ協会「人道危機緊急募金」(今後は国や地域を限定せず、世界各地で続く紛争の影響を受ける全ての子どもたちを覚えて献金を捧げます。)

各地の地震や災害、戦禍などによって年々寄付先が増加していますが、本校では特に幼い子どもたちの命を守る活動に注力していく所存です。

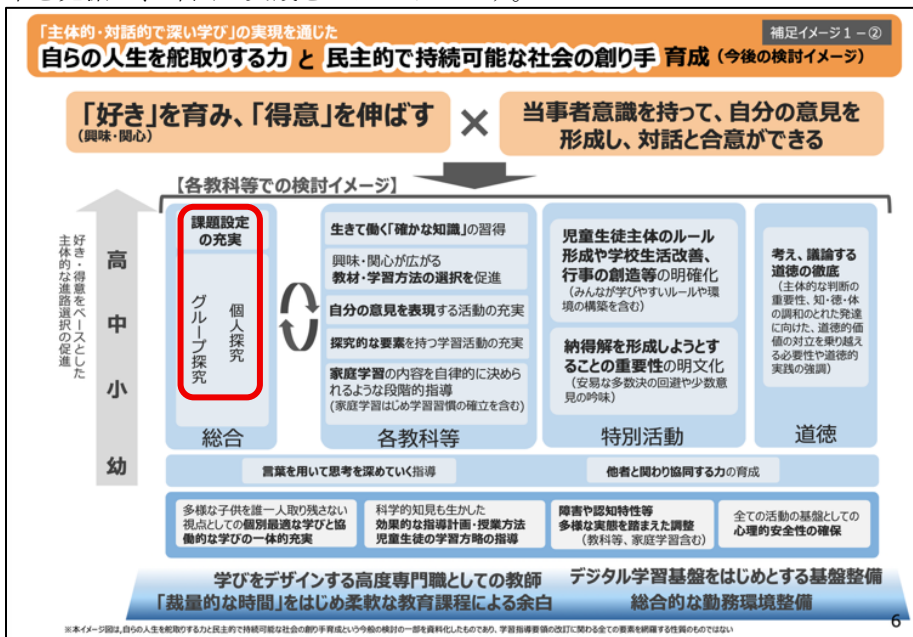
引き続き皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

3年生の新たな取り組み～個人探究とATL習得の授業～

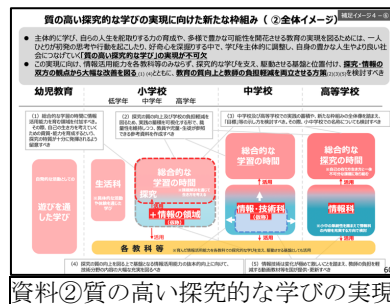
今年度、3年生の学年主任を務めます、3年1組担任の荒谷 達彦です。今年度の3年生では、新たな試みとして、UOIE 1時間・UOIJ 1時間の週2時間を活用し、個人探究を実施します。あわせて、UOIJの1時間では、Approaches to Learning (学習のアプローチ)の中でも、Thinking Skills の Analysis (分析)、Research Skills の Synthesizing & Interpreting (統合と解釈)に焦点を当て、Inquiry Cycle における Sorting Out にあたる思考スキルを育成します。具体的には、情報の「整理・分析」や、ICTスキルを中心とした情報活用能力の向上に特化した授業を行います。この導入に至った背景には、主に2つの理由があります。

1つ目は、2030年に全面改訂が予定されている次期学習指導要領の方向性です。2024年12月25日の中央教育審議会への諮問を受け、学習指導要領改訂に向けた議論が始まりました。2025年9月25日には、教育課程企画特別部会が論点整理を行い、「自らの人生を舵取りする力と、民主的で持続可能な社会の創り手」を育むことを目的として検討を進めること、また、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」と、「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」ことの2つを両輪として教育活動を進めていくことを目指すとしています。

また、総合的な学習の時間においては、課題設定を充実させた上で、グループ探究と個人探究をバランスよく充実させていく方向性が議論されています【資料①】。さらに、質の高い探究的な学びの実現に向けて、必要不可欠な情報活用能力の諸要素を教育内容として明記し、小学校では総合的な学習の時間において情報活用能力を育む領域を付加することも検討されています【資料②】。加えて、その情報活用能力を探究的な学びの基盤となる要素として整理した資料も提示されています【資料③】。このような流れの中で、情報活用能力の育成はもちろん、個人探究を実施する小学校も増えつつあります。本校でも、次期学習指導要領の本格運用が始まる2030年を見据え、今回の実践をスタートします。



資料① 次期学習指導要領の方向性



資料② 質の高い探究的な学びの実現



資料③ 情報活用能力の整理

もう1つの理由は、昨年度1月末に実施したPYP Exhibition 終了後に行った、6年生のふりかえりです。在校生、保護者の皆様、教育関係者、受験希望者など、多くの方々にご参加いただいた Exhibition の後、卒業間際までさまざまな形でふりかえりを行いました。その中で、6年生からは「5年生までに思考スキルの授業を経験したかった」「6年生でいきなり『興味のあること』を問われることや、これまで経験してきた UOI と Exhibition とのギャップが大きい」といった意見がありました。

探究心の中でも、問題(課題)発見力や興味・関心は、幼少期から備わっている力だと考えています。「これなあに?」という問いかけや、自由な想像力・創造力は、幼少期ほど豊かに見られます。しかし、学校生活の中で、正解のある問いに向き合ったり、大人から答えを教わったり、iPadやAIなどですぐに情報を得られる環境に触れたりすることで、自ら試したり、興味・関心に素直に向き合ったりする機会が少なくなってしまうこともあります。そこで、児童がその素直さを自由に表現できる時間として、また Exhibition と同様に児童自身が設計・実施する「個人探究」の時間を設定します。これにより、他教科との差別化を図るとともに、将来の Exhibition の充実にもつながると考えています。

2030年の次期学習指導要領全面実施を見据え、本校がその流れをリードできるよう、低学年の区切りとなる3年生から今年度、新たなスタートを切りたいと考えています。



The Power of Questions

Dear Parents,

The heart of the Primary Years Programme is Inquiry. This approach to learning is driven by a simple but powerful force: curiosity. As students move deeper into their units, their curiosity naturally evolves from basic "what" questions into more complex "how" and "why" inquiries.

Nurturing Curiosity and Thinking Skills

In the PYP, curiosity is valued as a powerful driver for lifelong learning. A central goal is to create an environment where students feel empowered to explore their own interests and follow their natural wonderings. While traditional resources like textbooks still provide a valuable foundation for facts, we are increasingly focused on a different style of learning, one where inquiry is driven by questions generated from the students themselves rather than simply answering pre-decided questions from a text. By encouraging students to use their agency to lead these investigations, the PYP programme helps them develop the critical thinking skills needed to navigate a complex world.

How Parents Can Support

You can help nurture this spirit of inquiry at home by valuing the process of questioning over the speed of answering:

"That's an interesting question. How do you think we could find out the answer?"

"What made you wonder about that today?"

"Are there any other ways to look at that problem?"

By supporting this curiosity, we work together to help students become lifelong, independent learners.

「問いかける力」を育む

保護者の皆様

初等教育プログラム（PYP）の核心は「探究（Inquiry）」にあります。この学習アプローチを突き動かしているのは、「好奇心」というシンプルながらも強力な力です。学習者がユニットを深めていくにつれ、彼らの好奇心は自然と、単なる「何？」という質問から、より複雑な「どうやって？」「なぜ？」という問いへと進化していきます。

好奇心と思考スキルの育成

PYP において、好奇心は生涯学習を支える強力な原動力として大切にされています。その中心的な目標は、学習者が自身の興味を追求し、自然な「不思議」を大切にできる環境を整えることです。教科書のような従来の教材も知識の土台として依然価値がありますが、私たちはそれ以上に、教科書の問いに答えるだけではない、児童自身から湧き上がる問いに基づいた学習スタイルを重視しています。児童が自らのエージェンシー（主導権）を発揮してこうした調査を主導するよう促すことは、複雑な世界を切り拓くために必要な批判的思考スキルの育成につながります。

保護者の皆様のサポート

ご家庭でも、早く答えを出すことよりも問いかけるプロセスを大切にすることで、探究心を育むことができます。

「それは面白い質問だね。どうすれば答えを見つけられると思う？」

「今日、どうしてそれが不思議だと思ったの？」

「その問題について、他にどんな考え方があるかな？」

こうした好奇心をサポートすることで、児童が自立した生涯学習者へと成長できるよう、共に歩んでいきましょう。

敬具

Chris Elsdon, PYP Coordinator



保護者の皆さま、ご入学・ご進級、誠におめでとうございます。春のやわらかな風とともに、新しい年度が静かに、そして確かな足取りで始まりました。校舎の中には、少し緊張した面持ちで廊下を行き交う子どもたちの姿があり、その表情には、期待と不安、そして希望が縋り交ぜになった、4月ならではの輝きが見られました。新しい教室、新しい友だち、新しい先生。子どもたち一人一人が、それぞれの思いを胸に、新学年という大きな節目に立っていることと思います。

年度のはじまりは、いわば白紙のノートの1ページ目です。まだ何も書かれていないそのページに、これからどんな言葉が、どんな出来事が綴られていくのか。子どもたち自身も、そして私たち教師も、胸の奥でそっと期待を膨らませる季節です。うまくいく日ばかりではないかもしれませんが。思うようにいかず立ち止まる日もあるでしょう。しかし、そうしたつまずきや迷いも含めて、その一つ一つが、やがて子どもたちの力となり、確かな成長の糧となっていく一年になることを願っています。

さて、今年度、私は学級担任を離れ、学務幹事という立場で、学校全体の教育活動を支える役割を担うことになりました。直接クラスを持たない立場になるのは初めてで、正直に言えば、かなりのさみしさと、これまでとは異なる緊張感の高まりがあります。毎朝教室で子どもたちを迎え、一日の終わりに「さようなら」を交わす、そんな当たり前だった日常からは一步離れることになります。

しかしその一方で、学校全体を見渡し、DIAでの教育活動の土台を整え、子どもたちの学びや生活がより豊かなものになるよう力を尽くせる立場でもあります。教室の中だけでは見えなかった景色、これまで気づくことのできなかった課題や可能性に目を向けながら、この学校に通うすべての子どもたちにとって、「学校に来るとほっとする。」「明日も来たい。」と思える場所であり続けられるよう、そして保護者の皆さまにとっても「DIAを選んでよかった。」と感じていただけるよう、日々考え、動いていきたいと思っています。

この「サザンクロス」は、これまで学級通信として、クラスの様子や子どもたちの成長、日々の小さな出来事をお伝えしてきました。私がDIAに赴任してから書き綴ってきた、子どもたちとの大切な記録であり、思い出の積み重ねでもあります。私が担任をした新6年生、新4年生、新3年生の子どもたちや、多くの卒業生の子どもたちと時間を共にしてきました。担任という役割を終えたからといって、この通信まで終えてしまうのは、子どもたちとつながってきた一本の糸を、自ら手放してしまうような気がしてなりません。

そこで今年度からは、形を少し変え、「学務幹事通信 サザンクロス」として、誠に勝手ながら月に一度、ラーナーの一面をお借りして発行を続けさせていただくことになりました。これまでの学級通信ほど、子どもたちのエピソードをお伝えすることは少なくなるかもしれませんが。しかしその分、学校全体の様子や、行事一つ一つに込められた思い、教育活動の裏側、そして一人の小学校教員として日々感じていること、考えていることを、丁寧にお届けしていきたいと考えています。忙しい毎日の中で、ほんのひととき、この通信を通して学校の空気や温度を感じていただけたら幸いです。

新年度の始まりは、子どもたちにとって大きな節目です。クラス替えがあり、担任が変わった学年もあれば、変わらなかった学年もあるでしょう。見た目にはいつもと変わらないようでも、子どもたちは新しい人間関係や環境の中で、精一杯気を張り、自分なりのペースで一日一日を過ごしています。4月、5月は元気いっぱいに見えても、家に帰ると甘えたり、いつもより口数が少なくなったりすることがあります。それは決して後ろ向きな姿ではなく、新しい環境に自分なりに向き合い、踏み出そうとしている証でもあります。

どうかこの時期は、「学校どうだった？」という何気ない一言とともに、子どもたちの言葉に耳を傾けてあげてください。うまく言葉にならない思いや、断片的な話であっても、「そうなんだね。」「それは大変だったね。」「がんばってるね。」と受け止めてもらえることで、子どもたちは心を整え、また次の日の学校へ向かう力を蓄えていきます。家庭で交わされる何気ないやりとりが、子どもたちの背中をそっと、しかし確かに支えています。

小学校で過ごす6年間は、人生全体から見れば短い時間かもしれませんが。しかしその6年間には、これから先を生きていくための土台となる、大切な学びが数多く詰まっています。勉強だけでなく、人との関わり方、思い通りにいかないときの折り合いのつけ方、失敗から立ち上がる力、自分で考え、選び、行動する力。その一つ一つが、日々の学校生活の中で、少しずつ、しかし確実に育まれていきます。

学校は、子どもたちが安心して挑戦できる場所でありたいと思っています。失敗しても大丈夫、やり直してもいい。そんな空気の中でこそ、子どもたちは自分の可能性に気づき、自分の力を伸ばしていきます。そのためにも、学校とご家庭が同じ方向を向き、手を取り合いながら、子どもたちの成長を見守っていただけたら願っています。

この一年間、「サザンクロス」を通して、学校の日常や、私自身の思いを、拙いながらも誠実に言葉にして届けていきます。どうぞ気負わず、肩の力を抜いてお読みください。そして、何か感じることや気になることがあれば、折に触れて学校へ声を届けていただければと思います。

新しい出会いに感謝しながら、子どもたち一人一人にとって、この一年が実り多く、心に残るものとなるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。今年度もどうぞよろしく願いいたします。



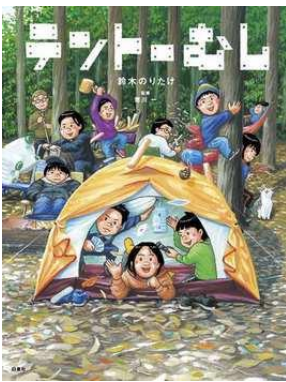
からのおしらせ

5月のゴールデンウィーク

待ちに待った連休がやってきますね。寒さも少し和らぎ過ぎやすくなってきたこの頃、キャンプを計画するのはいかがでしょうか。自然の中で快適に過ごせるよう DIA Library でキャンプ関連の本を借りてからお出かけしてみませんか。

*お話の紹介文は出版者のHPから抜粋しています。

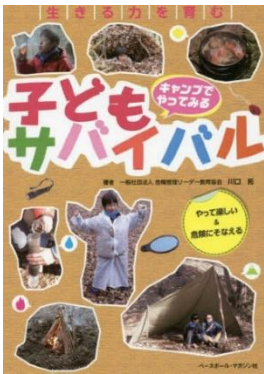
『テントーむし』作：鈴木 のりたけ 出版者：白泉社



テント張り、まきわり、火おこし、焚き火に料理。はじめてのキャンプは、わくわくがいっぱい！家族と行く海辺のキャンプ、友だち 10 人で行く森のキャンプ。それぞれのキャンプを通じて、自然の中で思い思いに時間を過ごす子どもたちが、生き生きと描かれます。はじめての火おこしに手こずったり、巨大なあぶり肉に挑戦したり、焚き火の前で夜中までおしゃべりしたり。いつもとはちがう、特別なキャンプの時間がたっぷり味わえる絵本です。

『キャンプでやってみる 子どもサバイバル』

川口 拓著 出版社：ベースボール・マガジン社



自然は、生きるために必要なものを与えてくれます。その中で、生きるための力は、3つに分けられます。「受け入れる力」「感じる力」「同調する力」本書では、親子が一緒に「サバイバルキャンプ」をしながら、この3つの「生きる力」を学び、育むことを目的としています。

『安心・安全 大自然とあそぼう〈5〉自然の中で身を守る』成田 寛/小菅 盛平/小林 陸【編著】

うすい しゅん【絵】 出版者：アリス館



安心して安全に自然のなかであそぶための知恵や方法を、野外あそびのベテランのナリタ先生が子どもの目線で教えます。

目次：野外あそびの服そうともちもの、安全にあそぶための注意点、天気
に注意しよう、危険な生きもの、野山の危険な植物、応急手当をおぼえよう、三角巾を使う、けが人や病人のはこび方、森や山で道に迷ったら、遭難
してしまったら、便利なロープワーク

5月の主な行事・予定

5月9日 土曜参観、全体コミュニケーションタイム
5月22日、25日～27日、29日 中間カンファレンス

1	金	
2	土	
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日
6	水	振り替え休日
7	木	PYP Planning 午前授業(AM Classes)
8	金	
9	土	土曜参観・全体コミュニケーションタイム/Saturday visit, general communication time
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	第1回学校説明会学校説明会/ The 1st Explanatory MTG 中間カンファレンス(午前授業)/Conference Week(AM Classes)
23	土	
24	日	
25	月	中間カンファレンス(午前授業) /Conference Week(AM Classes)
26	火	中間カンファレンス(午前授業) /Conference Week(AM Classes)
27	水	中間カンファレンス(午前授業) /Conference Week(AM Classes)
28	木	Swimming
29	金	中間カンファレンス(午前授業) /Conference Week(AM Classes) 健康診断
30	土	

6月の主な行事・予定

6/3(水)	花の日礼拝
6/4(木)	Swimming
6/5(金)	G1, G2 内科検診
6/6(土)	私小連音楽会
6/11(木)	G5 中学校進学保護者説明会 Swimming
6/12(金)	第2回学校説明会(午前授業)
6/17(水)	G4 宿泊学習
6/18(木)	G4 宿泊学習、Swimming
6/19(金)	G4 宿泊学習
6/24(水)	午前授業(教職員の研修のため)

